

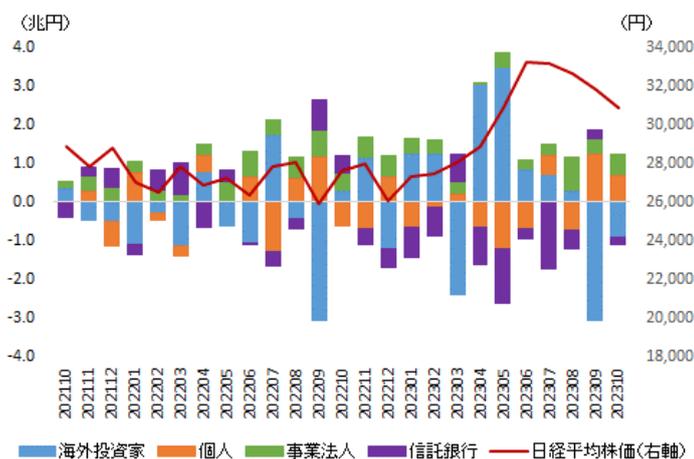
研究員の眼

2023年10月投資部門別売買動向 ～海外投資家は2カ月連続売り越し～

金融研究部 研究員 森下 千鶴
(03)3512-1855 mchizuru@nli-research.co.jp

日経平均株価は、10月上旬は、米金融引き締め観測による米長期金利の上昇と米国株下落が嫌気され、4日に3万526円まで下落した。その後は、F R B副議長等の発言から米国の追加利上げ観測が後退、米長期金利上昇が一服し、12日に3万2,494円まで上昇した。中旬は、堅調な米経済指標による米金融引締め長期化懸念や、中東情勢の緊迫化などから、日経平均株価の上値が抑えられ3万2,000円前後で推移した。下旬は、パウエル米F R B議長が追加利上げを示唆したことや、日銀によるY C C運用の再修正観測から、日米の長期金利が上昇した。それを受けて日経平均株価は26日に一旦3万601円まで下落したが、月末は3万858円に戻して終えた。10月の日経平均株価は998円安と今年最大の下げ幅となり、2023年7月以降4カ月連続の下落となった。10月はこのように日経平均株価が推移する中、海外投資家、信託銀行が売り越し一方で、個人、事業法人が買い越した。

図表1 主な投資部門別売買動向と日経平均株価の推移



単位: 億円 (億円未満切り捨て)		海外投資家	個人	証券会社	投資信託	事業法人	生保・損保	都銀・地銀等	信託銀行	日経平均株価 (円)
月次	202308	2,964	-7,468	-403	1,251	8,694	53	22	-4,598	32,619.34
	202309	-30,703	12,792	-183	3,448	3,675	-20	-208	2,408	31,857.62
	202310	-9,035	7,103	221	2,461	5,125	116	-3,767	-1,971	30,858.85

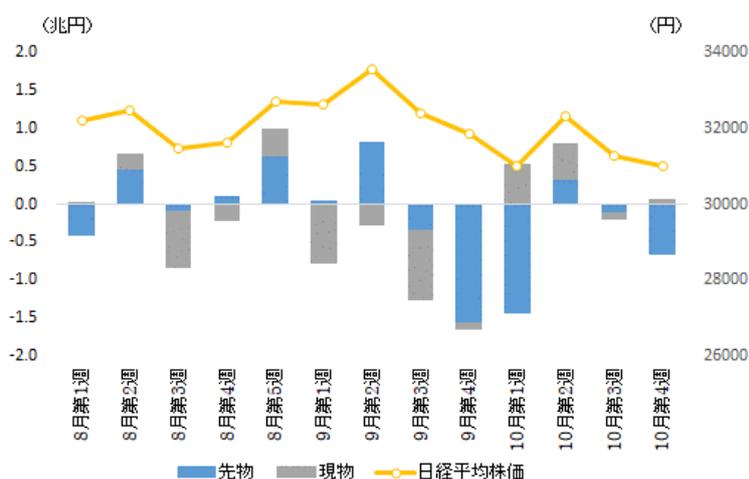
(注) 現物は東証・名証の二市場、先物は日経 225 先物、日経 225mini、TOPIX 先物、ミニ TOPIX 先物、JPX 日経 400 先物の合計

(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

2023年10月（10月2日～10月27日）の投資部門別の売買動向をみると、海外投資家は、10月に現物と先物の合計で9,035億円の売り越しと、10月最大の売り越し部門であった。週間では、第2週（10月10日～13日）は7,824億円買い越すも、第1週（10月2日～6日）は8,996億円の売り越し、第3週（10月16～20日）は1,845億円の売り越し、第4週（10月23～27日）は6,016億円の売り越しとそれ以上に売り越した。

図表2は海外投資家の週間の売買動向を、現物と先物に分けて集計したものである。10月は、現物は9,648億円買い越される一方で、先物は1兆8,684億円の売り越しと、現物の買い以上に先物が売られた。日経平均株価は、10月前半に約1,300円下落した後、一旦は約2,000円上昇したが、月末にかけては再び約2000円下落するなど、株価の変化幅が非常に大きかった。米国を中心とした金融政策と景気の見通し、それに伴う長期金利の動きに神経質になる中で、先物を中心とした短期投資家の動きが目立った様子である。また、信託銀行も現物と先物の合計で1,971億円を売り越した。

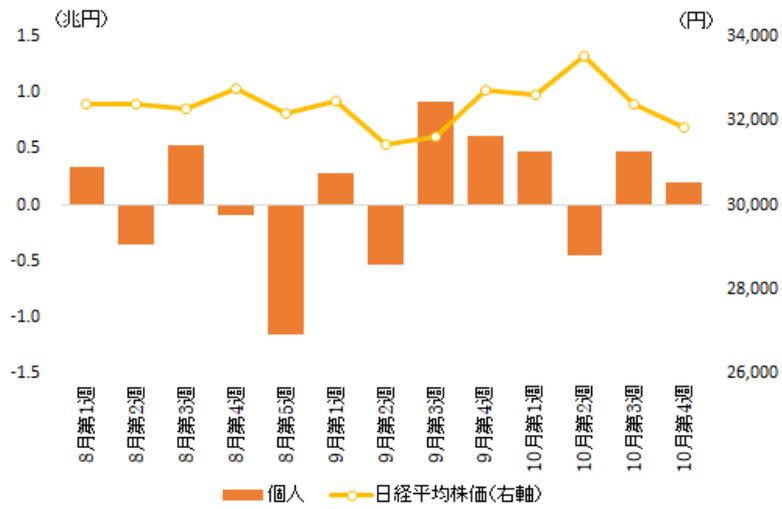
図表2 現物は買い越しも、先物が大幅売り越し



(注)海外投資家の現物と先物、週次
(資料)ニッセイ基礎研DBから作成

一方で、個人が現物と先物の合計で10月に7,103億円の買い越しと、最大の買い越し部門であった。週間では、第2週（10月10日～13日）は4,577億円売り越すも、第1週（10月2日～6日）は4,847億円の買い越し、第3週（10月16～20日）は4,757億円の買い越し、第4週（10月23～27日）は2,077億円の買い越しと、まさに海外投資家と反対の動きをしていた。日本株が下落するなか、個人は9月から「逆張り」の買いを継続していたことが確認できる。さらに、事業法人は現物と先物の合計で5,125億円買い越しと、2021年6月から29カ月連続で買い越した。

図表3 個人は2カ月連続の買い越し



(注) 個人の現物と先物の合計、週次
 (資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

以上

お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。